

連載**社会教育施設について考える（WG 報告）****～第 13 回：たちばな天文台～**

**福澄孝博（WG 代表／札幌市青少年科学館）、岩穴口栄市（たちばな天文台）、
生涯学習施設支援 WG**

1. はじめに

社会教育施設について考える本連載、今回は WG として事例調査した「宮崎県都城市たちばな天文台」につき報告します。指定管理者制度移行の後、天文台閉鎖の危機を迎えた同天文台、職員の行動力でそれを切り抜けることができました。詳細につきましてはデリケートな部分も含むため、この記事で明らかにすることは差し控えますが、WG 内では調査結果をデータにして保管・管理しております。参照されたい方は文末の福澄連絡先まで個別にお問い合わせください。

WG ではこのように個別の情報管理に留意しつつ、継続した事例収集にも努めていきたいと思います：後継の WG[1]での活動を含む。

2. たちばな天文台の紹介

今回取り上げるたちばな天文台は宮崎県都城市高崎町の小高い山の上にある天文台で、西には霧島連山を望むことのできる眺望の素晴らしい天文台です（図 1、図 2）。開館は、1991 年（平成 3 年）10 月、高崎町（当時）が 100%町債で建設しました（Wikipedia に

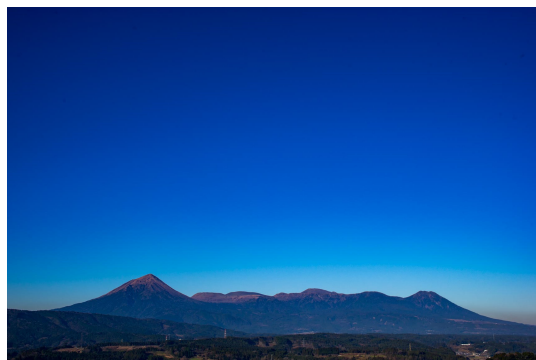


図 1 天文台から霧島連山の眺め

は、ふるさと創生事業で建設されたと書かれていますが、それは、間違いだそうです）。



図 2 たちばな天文台外観

その後、市町村合併で都城市の施設となり（2006 年（平成 18 年））、第三セクターによる高崎星の里総合産業株式会社が平成 29 年度末まで運営していました。平成 30 年度 4 月より、都城市の温泉施設 4 社が合併した都城ぼんち地域振興株式会社設立と共に、同社高崎事業所の天文台部門として新たに運営されています。

運営スタッフは、常勤職員 1 名、非常勤の台長が 1 名、お掃除&週末・繁忙期受付スタッフが 1 名の計 3 名ながら、2018 年度（平成 30 年度）の入館実績で来館者 5,400 名・アウトリーチ 2,935 名、合計 8,335 名の利用者であり、小規模の地方館としては、頑張っている入館者数だと自負しているとのことでした。

3. 天文台の危機と、その回避

そんなたちばな天文台ですが、常に順調だったわけではなく、過去に閉鎖の危機に瀕し

たこともあったそうです。

2014 年（平成 26 年）年末に指定管理者側から天文台職員の契約終了や他施設への移動（次年度頭付）が告げられました。機会あって市側にも相談したところ、契約は無事継続しました。これには担当者が実際に家族で天文台を利用したこともあり、普段の活動を理解してくれていたのも後押しになったと思われます。

その後、市長から必要な予算措置の保証の下、次年度来館者の倍増指示が出ました。一見、きつい目標のようですが、これを設定されたことにより、ある意味で天文台閉鎖は立ち消えました。目標達成に向け、社内で月例会議が開催されるようになったそうです。天文台職員・指定管理会社・市役所担当部署それぞれが同じ結果に向かって動くようになったわけです。

翌年、たまたま開館 25 周年だったことから、記念イベントの開催なども含め目標の 7,300 名を大幅に超えて 9,003 名（アウトリーチ&イベント参加者含む）の来館者を迎えられました。

その後、市側担当課長を務めた方が退職後管理会社に現場トップとして来るようになったこともあり、会社の実情や問題点を共有でき、大きな混乱無く運営が行われています。

4. 日々の活動が大事だった&今後の課題

今回、無事危機を回避できたわけですが、直接の転機は市側への相談だったものの、いきなり相談したわけではないとおっしゃいます。「解雇等の通知が具体的に出る以前から、折々に地元選出の市議会議員を訪ね、議会でも天文台について質問をしていただきました。ですから、相談に何う前から、市側も天文台の状況にある程度把握できていたと思われます。」

そして、何より一番大事なのは、来館者に

来ていただいているという事実です。毎年、天文台のイベント数は大小併せて 50 イベント、天文台が活動していることを内外に情報発信し続けているとのこと。これはイベントに参加されなくても、天文台があることを認知し、来館していただくことを狙ってだそうです。「市の文化施設である以上皆様に利用されることが最大の評価基準だと考え、自分たちでやれる範囲のことは最大限行っています。」

具体的なイベント告知の大きな手段は、年 4 回におよぶ近隣小学校へのイベントチラシ配布（20,000 枚）、これ以外にも、地道にマスコミへの情報提供・イベントの告知・良い天文写真が撮影できたらその提供など、地味ながらも広報業務も基本的な活動と認識し、力を入れてこられました。

「このような活動が基本にあったからこそ、今回の訴えが成功したと考えています。」

同時に、今後の課題もしっかり見据えられています。職員の世代交代、施設維持ともに喫緊な課題ではあるものの、予算の都合もあり、なかなか進展がありません。望遠鏡は年間保守契約を維持し、必要最低限の状態維持はできているが、開館以来大がかりなメンテナンスは一度も行われておらず、実現のめども立たない状態とのこと。そんな中でも、これからも「地域の皆様から愛される天文台を目指して、日々の業務を続けていきたいと思っています。」

5. インタビュー後の、状況補足（岩穴口さんより）

インタビューでも触れた、新しく来られた専務には天文台を盛り上げご協力をいただきました。そこから徐々に天文台と指定管理会社との関係が改善を始めました。今まで出ることのなかった会社の会議に出席することになり、出席することで今までは顔を知って

いだけだった職員と話をする機会が増えました。例えば、昨年の秋頃には料理長から「料理の写真を撮影して欲しい」との依頼を受け、撮影を行い、デジタルサイネージ（動画広告）を作成しました。その結果、食堂の来館者が倍増し売り上げ増に貢献しました。さらに、この4月からはメニューリニューアル＆値上げの際にもメニュー写真追加撮影およびメニュー作成を行い、お客様に好評を得ることができました。この様に新たな人間関係が構築され、良い繋がりが広がりました。話は若干前後しますが、管理会社ではこれまで全会議などの大規模な会議がなかったので、今年3月に実施しました。収益改善を目標とした職員の意識改革のために、会議の企画・レジュメの作成・各部長へ目標設定のテンプレートとして天文台のものを見せて作成を依頼＆発表を行ってもらい、さらに司会も行いました。ここまでやる職員は誰もいないので、社内からの評価もようやく上がり、天文台で実施してきたイベント企画力を社内で発揮できるまでになりました。そして、目下の所のたちばな天文台の問題の一つ、世代交代ができないという問題です。人件費が絡んできますので、直ぐにどうこうできる内容でもありませんが、より良い方向に向け、運営会社とも協議し、解を見つけ出したいと思います（少しずつですが、実際に前に進みつつあります）。
ようやく、どん底だった状況からここまで持ってこられたなあと思っております。

文 献

- [1] 福澄孝博ら（2018）「社会教育施設について考える（WG 報告）～第12回：本WGのこれからと新WGへの引継ぎ～」，天文教育，第30巻第6号（2018年11月号），25.



福澄 孝博



岩穴口 栄市

* * * * *